

光明院南遺跡F地点出土石棒



| | |
|---------|------------------|
| 〔指定年月日〕 | 平成三十一年二月二十七日 |
| 〔種別〕 | 指定有形文化財（考古資料） |
| 〔名称〕 | 光明院南遺跡F地点出土石棒 |
| 〔点数〕 | 三点 |
| 〔所有者等〕 | 杉並区教育委員会 |
| 〔所在地等〕 | 大宮一―二〇―八（郷土博物館内） |

指定有形文化財（考古資料）

光明院南遺跡F地点出土石棒

石棒三点は、平成二十二（二〇一〇）年に行われた、光明院南遺跡F地点（第六次調査）の発掘調査で発見された縄文時代の資料である。光明院南遺跡では、これまで八次にわたる発掘調査が実施され、旧石器時代・縄文時代・江戸時代の遺跡として知られている。

石材は、石棒一が黒雲母片岩、石棒二がデイサイト、石棒三が輝石デイサイトである。長さは、石棒一が三九・三センチ、石棒二が三八・七センチ、石棒三が五八・五センチを測る。

石棒三点は、柄鏡形住居の床面直上から出土した。この住居は、焼土や炭化物が出土した状況から焼失住居と推定できる。

この住居跡の覆土から出土した縄文土器が中期後半の加曾利E式を主体としていることから、石棒の製作年代は土器と同時期の中期後半と推測される。

石棒三点は全て被熱しており、石棒一は炉石に転用された状態で、石棒二は床面直上で、石棒三は柄鏡形住居の入口部において細かく破碎された状態で出土した。このように各々

〔文化財所在地〕



の石棒の出土状態が異なり、かつそれらが一つの遺構からまとまって出土したことが本資料の特徴といえる。なお、石棒三は、破片の被熱の状態から、被熱前に意図的な破損行為が行われていたと考えられ、縄文時代の精神文化を考える際の重要な資料と評価できる。